さいしん

第 18 号

2008 年 1 月 6 日発行

袴田巌さんの再審を求める会　会報

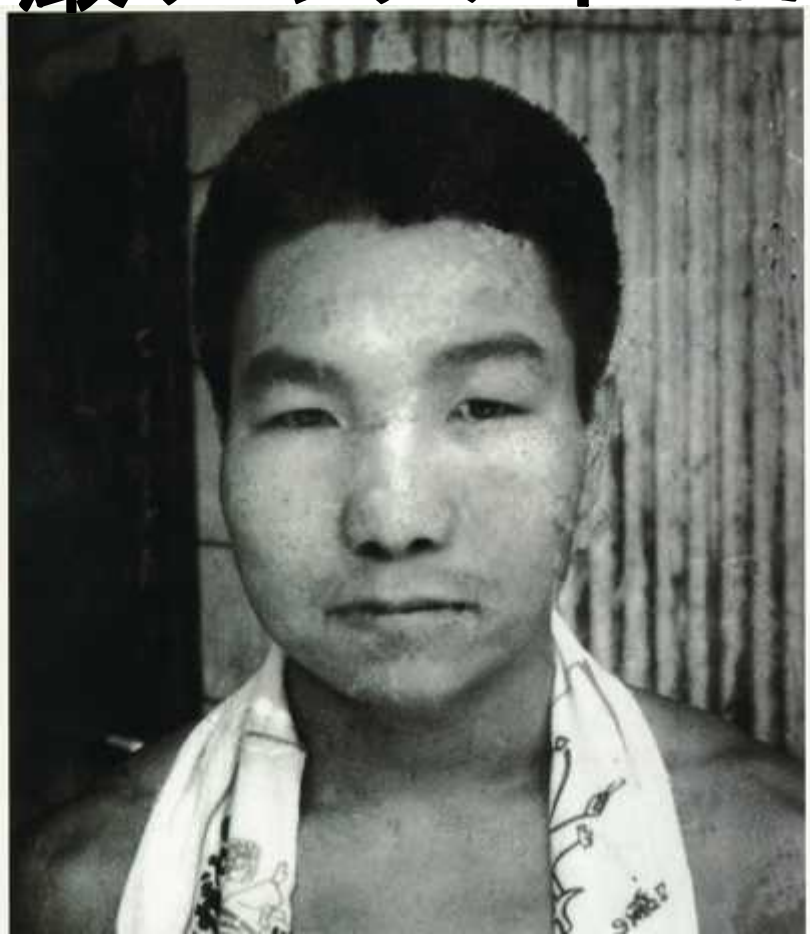
年間会費：3000 円／郵便振替口座番号：00120-3-410592／口座名称：袴田巌さんの再審を求める会

〒240-0024　横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町 53-4-205　TEL&FAX：045-743-1468（鈴木方）

HP アドレス：http://hakamadajiken.hp.infoseek.co.jp/

１月２４日（木）午後６時は後楽園ホールへ

袴田巌チャリティBOXING



～FREE HAKAMADA NOW！～

今年こそ、袴田さんの再審を勝ち取ろう！

～ Contents ～

○レ ポ ー ト	“今年こそ袴田さんを私たちの元に取り戻そう！”	事務局長・鈴木	・・・・2
＊イ ベ ン ト	袴田巌支援チャリティ BOXING　開催要項		・・・・3
△新 聞 報 道	袴田事件証拠品の製造元　再審呼び掛けTシャツ販売	静岡新聞から	・・・・4
○レ ポ ー ト	“Talk is Cheap”「やり残した仕事」	池田　高雄	・・・・5
☆投　　稿	「５点の衣類こそ無実を証明している」	堤　静雄	・・・・9
○レ ポ ー ト	「取調べの完全可視化」刑事訴訟法改正を実現しよう！	事務局・石井	・・・・10
●アーカイブ	1957年（昭和32年）第12回国民体育大会関連の記事	事務局	・・・・11
＊活 動 報 告	活動日誌・活動予定ほか	事務局	・・・・12

※「弁護団に訊く」「面会報告」「袴田事件トピックス」等の連載は次号に掲載します。

正真正銘勝負の年！今年こそ袴田さんを私たちの元に取り戻そう！

事務局長・鈴木　武秀

いよいよ２００８年が始動しました。事件発生から４２年目の今年、袴田さんは７２回目の誕生日を、またも獄中で迎えようとしています。

昨年、袴田事件を取り巻く環境は大きく変わりました。

ボクシング協会による袴田さんの全面支援、元裁判官・熊本典道氏の衝撃の告白、３年８ヶ月ぶりの面会実現等々。ビッグニュースが津波のように連続して起き、すっかり埋もれていたこの事件の存在が、再び世間の脚光を浴びることになりました。

過酷な取調べによる自白の強要や、はけないズボンに代表される矛盾だらけの物証など、事実を目の当たりにすれば、誰もが袴田さんの無罪を確信できるはずです。それほど袴田事件は明白な冤罪事件なのですから。

そして事実を知った多くの方が、実際に再審開始を求め立ち上がりました。

輪島功一さん、大橋秀行さんら元世界王者らは最高裁に要請書を提出し、早期の再審実現を直接訴えました。袴田さんの出身地である浜松では、巌さんの同級生らが中心となって救援会が再興されました。また犯行着衣とされた衣類の製造メーカーが袴田さん支援Tシャツを作成し、大きな話題を呼びました。テレビ、新聞といったメディアもそうした動きを逐一報道し、袴田事件の存在を世に問い続けています。

袴田さんの再審を求める声は、今この瞬間にも確実に広がり続けています。

そして今年こそ、いよいよ正真正銘の勝負の年となります。

12月18日には、現日本&東洋太平洋スーパーフライ級王者の河野公平選手もイベントのアピールを行った

１月１３日（日）、事件発生の地・清水で集会が行われるのを皮切りに、１月２４日（木）にはボクシング協会主催の“袴田巌チャリティ BOXING”が後楽園ホールで開催されます。その後も矢継ぎ早にイベントが行われることになっています。

また、袴田事件弁護団も新年早々にも最終意見書を提出し、最高裁に決断を強く迫ることになっています。

袴田巌さんを私たちの元に取り戻す闘いは、いよいよ最終章を迎えようとしています。

“FREE　HAKAMADA　NOW！”（今こそ、袴田さんを自由に！）

今年こそ必ず、袴田さんの自由をみんなで勝ち取りましょう。■

“袴田巌支援チャリティＢＯＸＩＮＧ～ＦＲＥＥ ＨＡＫＡＭＡＤＡ ＮＯＷ～”

いますぐ、袴田さんを自由に！

日　時　２００８年1月２４日（木）

開場　午後５時３０分　開始　午後６時

場　所　東京・後楽園ホール　（JR水道橋駅徒歩１分）

入場料　先着自由席　２，０００円

イベント内容　（１）現・元世界王者によるスパーリング

（２）現・元世界王者らが指導するちびっ子ボクシング教室
（３）豪華メンバーによる袴田事件トークショー
（４）有名ボクサーらが多数出品！チャリティオークション
（５）ＪＢＣによる“名誉ライセンス贈呈式”！
（６）袴田事件弁護団あいさつ、袴田事件演劇上演
（その他、まだまだサプライズイベント企画中です！）

主　催　日本プロボクシング協会　　**運　営**　JPBA 袴田巌支援委員会

「袴田巌チャリティボクシング」　ご協賛のお願い

この度、1月24日に開催致します、日本プロボクシング協会主催イベントに際し、皆様よりご協賛を賜りたくお願い申し上げます。

本事件は、実際に死刑判決文を書いた元裁判官が無実を主張している、極めて冤罪性の高い事件です。41年間、獄中から無実を訴え続けている元プロボクサー袴田巌さんの再審実現の為、本イベントを成功させて世論を盛り上げ、ボクシング界一丸となっての支援をおこなってゆきたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

ご協賛金・・・一口　30,000円

※ご協賛一口に対し、特別ご招待券2枚と先着自由席10枚のチケットをお送り致します。また、当日会場にて配布するパンフレットに会社名等を掲載させて頂きます。

パンフレット掲載受付締切：1月14日

お振込先・・・三菱東京UFJ銀行春日町支店　普通口座　1765564　袴田巌支援委員会

“Talk is Cheap” 池田高雄拳跡集より

「やり残した仕事」

ボクシングライター　池田　高雄

ボクシングライター、元ボクサーらによるエッセイ、インタビューなどを掲載している人気ウェブサイト“Talk is Cheap”。新田渉世さんも『袴田事件報告』を随時掲載し、おなじみの方も多いと思いますが、このたび、新田さんの後輩にあたる元プロボクサーの池田高雄さんが、袴田事件に関する長文のエッセイを書かれました。

袴田事件の数々の疑問点を鋭く抉るとともに、元ボクサーの視点から再審開始の必要性を熱く訴えかける池田さん。渾身の一文をここに紹介します。

世間では亀田フィーバーが去って今度は内藤フィーバーが吹き荒れている。

しかしその取り上げ方が「時給９００円のアルバイト生活」だの「月給１２万円の極貧生活」と言ったまったく中身の無い表面的で薄っぺらな内容ばかりだ。

なぜ、世界チャンピオンに成る様な男がこんな貧しい生活をしなければならないのか？

なぜ、プロとは名ばかりでほとんど全てのプロボクサーは他に仕事を持たなければならないのか？

なぜ、大手のジムの会長達は高級国産車や外車を乗り回しながらボクサー達は自転車なのか？

そこまで掘り下げて追求した記事は残念ながら見当たらなかった。

ボクサーにはプロ野球選手達と違ってファイトマネーに対する交渉権といった物は存在しない。ジム側が提示する額を黙って受け取るのみだ。

ボクシング界の上の人達は今回の時給がいくらだの月収がいくらといった一連の報道を受けて恥ずかしく思わなくてはならないはずだが、そんな感情は持ち合わせてはいないようだ。

給料に対する交渉権はまったく無く搾取されるだけ搾取され、その上他の職場にも自由に転職出来ない、いわゆる移籍が出来ないボクシング界は異常な世界である事に誰も気が付かないのか？

バカの一つ覚えの様に「構造改革」を訴え続けて来たマスコミ連中はボクシング界の構造改革こそを取り上げるべきだが、大新聞でさえ亀田ファミリーの悪行を批判するだけにとどまり非常に残念だった。

ボクシングを始めたきっかけであり、リングに上がり続ける原動力であるいじめられっ子の過去をマスコミ連中によってしつこくほじくり出されその思いを全て吐き出させられた内藤選手はモチベーションが枯渇し、次の防衛戦で敗北そして引退となるだろうが、負けたらマスコミ連中は手の平を返して誰も見向きもしなくなる。そうなる前に内藤選手にはどうしてもやってもらいたい仕事がある。

それは「袴田事件」を世の中に訴える事だ。

私の先輩であり新田ジム会長の新田渉世氏が義憤に駆られて立ち上がり、今静かに再燃しつつあるこの「袴田事件」をマスコミに訴え世論を動かしてもらいたい。

ボクシング関係者で「袴田事件」を知らない人間はいないと思うが、一般の人にはまだあまり知られていない。

この袴田事件に関しては山本徹美氏の500ページにわたる力作「袴田事件」に非常に詳しく書かれているが、今回勝手ながら私が気になる点を何箇所か要約させていただく。

先ずその事件の内容とは、一家４人が合計45箇所以上刺されて惨殺されその後証拠隠滅の為放火までされたという陰惨な事件であり、その犯人とされたのが殺された一家の主が経営するみそ工場で働きその工場の二階に下宿していた元日本フェザー級６位の袴田巌さんだった。

逮捕のきっかけになった証拠品の一つに袴田さんの部屋のゴミ箱から見つかった血の着

いた脱脂綿と布団の上に無造作に置かれたパジャマがあるが、これらは放火された一家の消火作業中二階から誤って転落した際にトタン屋根で切った傷からの出血だと袴田さんは主張する。

もし袴田さんが犯人だとして、わざわざ証拠になるような品を無造作に部屋に置いとくだろうか？

犯人は証拠になる様な物を全て消すために放火をしたはずなのに、だ。

しかもそのパジャマからは血痕らしきものがわずかに判明しただけだった。警察が主張するように犯行時袴田さんがパジャマを着ていたら、一家４人合わせて 45 箇所以上の刺し傷を負わせている訳だからかなりの返り血を浴びているはずだ。

それがわずかな血痕らしき物が認められる、と言うだけでこのパジャマの持ち主の袴田さんを容疑者として逮捕した。

警察が当初、袴田さんの犯行着衣と主張していたパジャマ。当時の新聞報道では“血染めのパジャマ発見”と書かれ、持ち主の袴田さんが真犯人であるかのごとく伝えられたが、実際には肉眼でも判別できないほどの微量の血痕しか付着していなかった。

袴田さんは警察署に拘留されるがその後の取調べは言語を絶する酷さだ。

わずか三畳半程の取調室での尋問は一日平均 12 時間に及び酷い時は 16 時間、朝から深夜２時にまで及んだ。その間食事は朝一杯の麦飯とみそ汁、昼はパン、夜は再び一杯の麦飯とみそ汁という実に酷い物で袴田さんは栄養失調状態に陥いる。

更に深夜独房に戻され眠りにつこうとすると隣の房に暴れ騒ぐ酔っ払いをかわるがわる入れ袴田さんに睡眠を取らせない様にした。

この取調べ期間は夏真っ盛りの時期だったが、クーラーや扇風機等もちろん無く袴田さんが流れ落ちる汗を拭こうものならその手を叩き怒鳴り散らし髪の毛を掴んだ。

しかもトイレにも行かせてもらえず取調室の隅っこに置いた簡易便器にさせられた。しかも真夏のこの時期に入浴は一週間に一度だけという非道さだ。

そしてついに取調べ 20 日目、耳鳴りとめまいを起こしまともに起きていられなくなった袴田さんは「お願いだから少し休ませてください」と懇願する。すると警察は「ここに名前を書け」と言い放つ。ほとんど思考力すらなくなった袴田さんは休みたい一心で警察が作り上げたでたらめな供述書にサインをした。

それだけで袴田さんが犯行を自白した事になり犯人と断定された。

サインをした後「私はやっていない」と言う袴田さんに対し警察は「もう認めたじゃないか、この上否認なんかしたらお前のおふくろも兄弟も留置して調べる。そしたら息子は誰がみるんだ？」と脅かした。

袴田さんはこの脅しが一番身にこたえた、と言う。

袴田さんが一人息子をいかに愛していたかがよくわかる。

警察が作った供述調書には犯行の動機は袴田さんが息子と袴田さんの母親と三人で住むためのアパートを借りる敷金５万円欲しさに雇い主宅に強盗に入った事になっている。

袴田さんは結婚後男の子を一人もうけるが、奥さんは他に男を作り子供を捨てていなくなった。袴田さんはその子を実家に預けて工場で働いていた。

袴田さんは非常に子煩悩だったらしく必ず一ヶ月に一度実家に帰りその日は一日中子供と遊んでいたそうだ。

そんな袴田さんを見てお母さんがもっと実家に近い所で働けばどうか？と聞いたところ、こんなにいい給料がもらえる所は他にないから、と言ってお母さんのその提案をことわった。

サラリーマンの平均月給が２万円だった時代に３万円もらい、飲みに行けば小遣いまでもらっていた袴田さんは殺された経営者に対して感謝の念しか持っていなかったはずだ。

しかも経営者が殺された一月後にはボーナスを合わせて６万円もらえるはずだった。

常識的に考えて一月待てば６万円が手に入るのに、５万円の金欲しさにお世話になって感謝の念すら持っている人の家に刃物を持って強盗に入るだろうか？しかもかわいい盛りの３才の子供がいるのに、だ。

袴田さんには強盗殺人事件をやる動機がまったくない。

更に警察は凶器とされている現場に落ちていたクリ小刀の販売店を突き止め、その店主の奥さんにみそ工場の従業員２８人の写真を見せこの中にクリ小刀を売った人物がいるか聞くのだが、なんとその中に袴田さんの写真だけ二枚入れていたのだ。なんたる卑怯なやり方だろうか。

警察は凶器とされた小刀を販売したとされる刃物店を突き止め、みそ工場の従業員の写真の中に見覚えのある顔があるか質したが、なぜか袴田さんの写真だけ２枚入れるという、露骨な誘導捜査を行った。

そして警察の思惑どおりその夫人は袴田さんの二枚目の写真を取りどこかで見た事がある、と話す。

警察はこのあやふやな発言一つで袴田さんが凶器を購入したと断定。更にあろうことか裁判所もそれを認めた。

警察の作ったでたらめな供述調書に袴田さんの犯行時の描写があるが、それによると袴田さんは主人に見つかり怒った主人が袴田さんの足を蹴り更にすねを蹴り上げているが、深夜寝起きに刃物を持った強盗相手にキックボクサーでもない一般人が至近距離からとっさに蹴りを放てるだろうか？

しかもその後袴田さんはその主人を殴ってその勢いで膝をついた、とあるが、30戦程の試合のキャリアがある元ボクサーが酔ってもいないで、空振りもしていないのに相手を殴ってその勢いで膝を着く、何て事は絶対にありえない。

更にこの供述調書には袴田さんや殺された主人と奥さんが何度か叫んでいるが、「歌を歌ってても聞こえる」と言う程隣接している両隣りの住人は誰一人としてその叫び声を聞いていない。

更に警察は犯行時家族は全員寝ていたと言う事にしているが、主人も奥さんも腕時計をしており、娘さんは制服を着ており息子さんはワイシャツにシャープペンシルが差してあった。

これが就寝時の服装だろうか？

しかも隣家の人の証言に「いつも九時半ごろに息子さんが下駄を鳴らしてトイレに行く音が聞こえるがこの日は聞こえなかった」とあるが、検察はこの証言をまったく取り上げなかった。

なぜなら袴田さんには 10 時半までは部屋で他の従業員とテレビを見ていたというアリバイがあるからだ。

検察は袴田さんを犯人にする為にこの隣人の証言を完全に無視した。

更にこの事件を象徴するのが、一家の 17 才になる次女の殺され方だ。

ここに書くのがはばかれる程の理解不能な殺され方なのだが、もし袴田さんが犯人なら警察はなぜそのような殺し方をしたか尋問するのが当然だと思うが、まったくその形跡はなく裁判でも検察はまったく取り上げなかった。

警察は犯人ではない袴田さんに理由を聞いても答えられないと思っていたに違いない。

更に袴田さん拘束後一年が過ぎた頃、突如みそ工場のタンクの中から血痕のついた衣類５点が発見される。

事件発生から約１年２ヵ月後、工場内のみそタンクから突如として５点の衣類が発見される。警察はまるでこの展開を予測していたかのように、実家のタンスからズボンの共布を押収。犯行着衣をあっさりと変更した。

その衣類発見後いきなりと言っていい唐突さで袴田さんの実家を警察が家宅捜査する。

そこで警察はしらじらしくもタンスの奥から一枚の布切れを見つけたと言い、この布切れは発見された５点の衣類の中のズボンと一緒の生地だと断定し、袴田さんのお母さんもそれを認めたと発表した。

発見された５点の衣類は一家殺害後犯人が捨てた物と断定され、そのズボンの持ち主である袴田さんが犯人だと検察は主張する。

裁判で袴田さんのお母さんはその布切れが袴田さんの持ち物だとは警察に認めていないと主張するが、なんと裁判官はお母さんの発言を「あいまいかつ作為的で信用しがたい」として却下し袴田さんに死刑を宣告した。

突如として現れた衣類５点発見後いきなり袴田さんの実家を家宅捜査し、誰も見ていない隙に布切れ一枚を発見したと主張する警察の方がよっぽど作為的ではないのか？

袴田さんのお母さんは、自分がもっとはっきりと否定していれば息子を死刑にさせずにすんだのに…と死ぬまで自分を責め続けたに違いない…。

しかしそれから数十年後、そのズボンのサイズがウエスト 83 センチの物を 80 センチに詰めてあり、当時の袴田さんのウエストが７６センチだと言う事実を発見する。

著者の山本氏が指摘するようにそれだけサイズが違えばズボンがずり落ちないように必ずベルトをするはずだがそのベルトは発見されていない。

犯行後ベルトだけはずして証拠になる衣類を捨てたなんて事はありえないだろう。

しかも５点の衣類が見つかったみそタンクの隣りにはボイラー室がある。ボイラーの中に犯行に使った衣類を投げ込めばそれで証拠は跡形も無く消える。なぜ必ず発見されるみそタンクの中に自分の衣類をわざわざ捨てなければならないのか？

この衣類の見つかった一件は静岡県警清水署が袴田さんを犯人とする為に作り上げたでっち上げでしかない。

その他ここでは書き切れない程の数多くの矛盾点があるのだが、その無数の矛盾点を何一つとして説明出来ない検察はなんと「殺人事件には不条理、非合理があって当たり前」と開き直った。

そしてそれをあろうことか裁判官がその馬鹿げた発言を認め何一つ矛盾点を解明出来ないまま袴田さんの死刑が確定された…。これで日本は本当に法治国家と言えるのか？

昨今耳を疑うような凶悪事件が後を絶たないが、それらの事件の犯人達は犯行時精神衰弱状態だっただの未成年だったとかで驚くような軽い刑で終わっている。

それがなぜ、犯罪を犯した確固とした証拠は何一つ無い袴田さんが死刑に成らなければならないのか？

私がこの山本徹美氏の著書「袴田事件」を読んで怒りで体が最も熱くなった部分は、検察が袴田さんを犯人だと認める理由の一つに「前歴が元ボクサーで…」という一文がある。

前歴がボクサーだからなんだというのだ！

更に検察は最高裁の場で袴田さんの事を「ボクサーくずれ」と吐き捨てた。

まがりなりにも従業員３０人規模の会社に勤め上げ、子供も養育しつつましく生きてきた元ボクサーをボクサーくずれと呼ぶのなら、全ての元ボクサーはボクサーくずれと言う事になる。

袴田さんが獄中からトクホン真闘ジムの

佐々木会長に送った手紙の一文にこう書いてある。

「私は二つの拳で闘って来たボクサーなんです。ボクサーであった事が私の唯一の誇りなんです。凶器を持って人を殺せると思いますか」

国家権力をかさに着る警察と検察は袴田さんの唯一の誇りを無残にも踏みにじった。

今も昔もボクサーを見下し、偏見を持つ輩は掃いて捨てる程いる。

私も引退後そんな偏見の目に晒された事は一度ならずある。

ボクシングに青春の全てを、いや、人生の全てを賭けて闘っている今の若いボクサー達が引退後、私と同じ様な悔しい思いをさせたくない、その一念でボクサーのイメージを著しく地に落とす亀田ファミリーの所業を一貫して非難して来た。

袴田さんは全ての元ボクサーを代表して、世間の言われ無き偏見とたった一人で闘って来たのだ。

袴田さんを獄中から救い出す事は、ボクシング界の使命でなければならない。

囚われの身になった仲間は何がなんでも救い出す。

拉致被害者を見捨てる薄情な日本政府とは我々は違うと言う事を、亀田騒動で拭い切れない汚点を着け世間が注目する今こそ、ボクシング界は内外にその決意を知らしめる時だ。

亀田兄弟を散々持ち上げて彼らの傍若無人さをより尊大な物に助長させたボクシング専門誌やスポーツ新聞全紙は、せめてもの罪滅ぼしの為に、この袴田事件を大々的に取り上げるべきだ。

内藤選手には「亀田に勝った男」だけではなく「無実の元ボクサーを救った男」としてその名をボクシング界の歴史に残してもらいたい。

ここに袴田さんが獄中から愛する一人息子に送った手紙の一文がある。

「お前のチャンは決して人を殺していないし、一番それをよく知っているのが警察であって、一番申し訳なく思っているのが裁判官であることを」

自分を犯人に仕立て上げた警察や自分に死刑判決を下した裁判官を恨む事無く同情の念すら持っている袴田さんの心根の優しさに強く打たれた…。

女性を愛する自由も、子供を抱きしめる自由も、突然理不尽に奪われてすでに４０年の月日が流れた・・・・・。

袴田さんもすでに７０才。

残された時間はあまりにも少ない…。

しかしここに来て新田会長の不断の努力が実を結び、ボクシング関係者としては実に 27 年ぶりに袴田さんとの面会を果たす快挙を成し遂げた。

更に袴田さんに死刑判決を下した最高裁判事の３人の内の１人の方が、袴田さんは無罪だと思いながらも圧力に屈した…と、涙ながらに衝撃の告白をした。

そしてこの元最高裁判事の方は袴田さんを救う為、弁護士資格を取得されるとの事。

確実に追い風が吹いて来ている。

この風こそが袴田さんを救う神風だと、私は信じたい。■

読者の投書から

「５点の衣類こそ無実を証明している」

堤　静雄（福岡県在住）

私は金も地位も何もありませんが、袴田さんの無実は以前から強く確信しています。もう 30 年以上前になるでしょうか、週刊誌で読んだようです。味噌タンクの中から出てきた５点の衣類なる物は、袴田さんの無実を証明するだけでなく、検察側が袴田さんを殺そうとしている重要な証拠です。

この世の中に恐いものはいろいろありますが、検察官が税金をもらって白昼堂々と殺人を企てること程恐いものはありません。このような蛮行は絶対に阻止せねばなりません。

ボクシング界の運動とともに貴会が発展することを祈ります。■

「取調べの完全可視化」刑事訴訟法改正を実現しよう！

2007年は社会の大きな変化を予感させる年だった。一年を表す言葉は「偽」だとか。確かに数々の「偽」が統治機構内部に頻発した。最大のものは「消えた年金」「防衛省汚職事件」「薬害肝炎」「鹿児島・富山等のえん罪事件の顕在化」に象徴される統治機構の劣化、主権者をだまし続けて平然としている公務員たちの腐敗ぶり、かのソ連型社会主義国家の終末期をも凌駕するおぞましさだ。非正規雇用労働者の増加と国民各層に拡がりをみせる貧困問題は、仮にその根本要因が経済活動のグローバル化にあるとしても、その弊害を調整し最小化を図って国民生活を守るのが統治機構（そこで職を得ている政治家・公務員たち）に課せられた憲法上の義務だ。それを怠ろうという輩に「自己責任」や「道徳心」などという言葉を軽々しく口にしてほしくないもんだ。

袴田巖さんは事件以来42回目の年越しも拘置所の中で迎えた。最高裁はいまだ決定を出さず、巖さんの命を弄ぶかのように時間だけが過ぎていく。41年以上前に巖さんが受けた苛酷な取り調べ、無実の被疑者を犯人に仕立て上げる暴挙がいまでも続けられている。2007年の大きな話題であった「鹿児島選挙違反冤罪事件」「富山強姦冤罪事件」により警察・検察の被疑者取調べへの批判が一気に高まった。そして7月の参議院選挙で参議院での与野党逆転が起こり、念願であった取調べの完全可視化へ向けた刑事訴訟法の改正が参議院で可決されるだろう状況が生まれている。自民党の司法制度調査会でもこの問題のために新たに部会が作られ議論せざるを得ない所まで来ている。袴田さんの再審実現のためにも是非この刑訴法の改正を実現させなければならない。最高裁は今こそ過去の法・制度の欠陥のもとで行われた冤罪・誤判という権力による誤ちを司法として認め、改めるべき時だ。（石井）

１９５７年（昭和３２年）第１２回国民体育大会関連の記事より（次ページ）

①静岡新聞（朝刊）1957(昭和32年)9月8日
「石原ら県代表決まる」
～バンタム級決勝・袴田(浜松中島)判定勝ち

②静岡新聞（夕刊）1957(昭和32年)10月6日
「プールからボクシング場へ」
～バンタム級の浜松出身袴田巖は、打たれても打たれても退かないファイターである。パンチの切れが悪く、テクニックが上手ないなどの欠点を持合せており、本県勢の穴だといわれているが、相当にやれる。

③静岡新聞（朝刊）1957(昭和32年)10月10日
「一般の三位は確実」
～フライ級石原、バンタム級袴田の二人は新顔だから未知数。

④朝日新聞（朝刊）静岡版1957(昭和32年)10月19日
「組合せ次第で二位？」
～バンタムの袴田巖選手(浜松中島BC)はいつも家族がリングサイドに顔を見せている程家中熱心、闘志はあるが体重を無理に下げているので、三分間三回戦のどこまでがんばれるか不安。

（袴田選手の戦績は３勝２敗（1KO)、ボクシング静岡県代表の団体成績は３位だった）

活動日誌

12/11(火)　新田会長、鈴木事務局長、巌さんと面会
　フラッシュ赤羽ジム興行でアピール（東京・後楽園ホール）
12/12(水)　新田会長と１・２４イベント打ち合わせ（川崎）
12/17(月)　袴田事件弁護団、再審請求理由補充書（３）を最高裁に提出
　弁護団会議（東京・日弁連会館）
12/18(火)　ボクシング興行“Challenge Spirit Series”でアピール（東京・後楽園ホール）
12/22(土)　全日本新人王決勝戦会場でアピール（東京・後楽園ホール）
12/25(火)　袴田事件弁護団若手弁護士と支援者の合同勉強会（東京・渋谷合同法律事務所）
12/27(木)　鈴木事務局長、東拘訪問も拒否される
12/30(日)　新田会長と１・２４イベント打ち合わせ（川崎）
1/5(土)　日本プロボクシング協会袴田巌支援委員会打ち合わせにオブザーバー参加（東京・後楽園）

袴田巌再審支援Ｔシャツ HPが完成しました！！

東京・両国の鐘百繊維工業（株）、山本和弘社長の全面協力で実現した支援Ｔシャツが、いよいよウエブサイトから簡単に購入することができるようになりました。新デザインも多数登場、また冬用のパーカーも取り揃えました。

あなたもお気に入りのＴシャツで、袴田さんの再審実現をアピールしましょう！！

http://www.free-hakamada.com/index.shtml

活動予定

求める会

1/11(金)
日本プロボクシング協会袴田巌支援委員会打ち合わせにオブザーバー参加予定（東京・後楽園）
1/14(月・祝)
世界スーパーフライ級タイトルマッチ会場でアピール（横浜文化体育館）
1/19(土)
日本スーパーライト級タイトルマッチ会場でアピール（東京・後楽園ホール）
1/24(木)
弁護団会議参加（東京・日弁連会館）

その他の組織

1/13(日)13:30～
清水集会（清水テルサ）
1/24(木)18:00～
袴田巌支援チャリティＢＯＸＩＮＧ　～ＦＲＥＥ　ＨＡＫＡＭＡＤＡ　ＮＯＷ～（東京・後楽園ホール）

カンパのお願い

今期はボクシング会場や各種集会でのアピール等、非常に多くの行動が重なったため、多額の出費を要しました。それに見合った成果は勝ち得たと自負しておりますが、今後も更なる前進をするためには、皆様の資金的援助が必要です。

来年は正真正銘、勝負の年です。ボクシング協会のイベントや、弁護団の最終意見書提出など、年明けから大きな動きが目白押しです。求める会もこうした動きと連携しながら、全力を尽くして袴田さんの再審実現に取り組んで生きます。

ご協力よろしくお願いいたします。

カンパの振込先

郵便振替口座番号 ： 00120－3－410592
口座名称 ： 袴田巌さんの再審を求める会